

## トロントにおける JF 日本語講座 ” Japanese Together ” 開設

倉沢 郁子  
トロント日本文化センター

### 1. 背景

国際交流基金トロント日本文化センター（以下「トロントセンター」）では、2011年より世界にある国際交流基金の各拠点と同様、日本語講座を開設した。開設当初は、日本語能力試験 (JLPT) 体験講座、旅行会話講座、ひらがなやカタカナを学ぶ講座、映画を題材にして日本語を学ぶ講座等、単発講座を中心に実施してきたが<sup>1)</sup>、2013年秋、JF日本語教育スタンダード（以下「JFスタンダード」）準拠教材『まるごと 日本のことばと文化』（以下『まるごと』）入門(A1)を使用した総合日本語コース、Japanese Together のパイロットコースを開講（以下「パイロットコース 入門 (A1)」）、翌年2014年秋には同講座を一般に公開（以下「本コース 入門 (A1)」）、そして次のレベルである『まるごと』初級1(A2-1)のパイロットコース（以下「パイロットコース 初級1 (A2-1)」）も同時に実施した。本稿は、トロントセンターにおける講座開設から現在に至るまでの2年間の取り組みを記述し、学習者アンケート（資料1 アンケート）、及び講座開設から2年目の終了時に行った学習者とのインタビューをもとに今後の講座運営の方向性を探ることを目的とする。

【表1：トロントセンターでの講座実施状況】

	2013-2014年度	2014-2015年度
『まるごと』入門 (A1) (Japanese Together 1)	パイロットコース 入門 (A1)	本コース 入門 (A1)
『まるごと』初級1 (A2-1) (Japanese Together 2)		パイロットコース 初級1 (A2-1)

### 2. 講座実践内容

以下、パイロットコース 入門 (A1)、本コース 入門(A1)、パイロットコース 初級(A2-1)の順に概要と実践内容について述べる。

パイロットコース、本コース入門 (A1)のコース概要は、以下の通りである。

【表2：入門 (A1) 講座概要】

コース名	Japanese Together Level 1	
	パイロットコース	本コース
実施日時・期間	2013年9月～2014年6月	2014年9月～2015年6月
授業時間	120分@1コマ 1回 x10週=10回	120分@1コマ 1回 x10週=10回*

授業担当講師	報告者	
1クラスの学習者数	5名@Term 1 4名@Term 2 4名@Term 3	6名@Term 1 5名@Term 2 3名@Term 3
学習者の属性	男性2名、女性2名@Term 3 20代1名、30代1名、 40代1名、50代1名	男性1名、女性2名@Term 3 20代1名、50代2名
使用教材	『まるごと』入門(A1)「かつどう」編、「りかい」編	

\*本コース入門 (A1)Term 3は担当講師研修参加のため予定を変更し、180分@1コマ、1回x7週間=7回、合計20時間とした。(最終日は、120分@1コマ)

## 2.1. パイロットコース 入門 (A1)

### 2.1.1 コース設定と講座受講者

本パイロットコースは、上述の通り、トロントセンターにおける初めての総合日本語講座であり、まずコースの設定を考えるところから始まった。『まるごと』を使用した成人対象講座として、当地の学校教育の学年度が9月に始まり6月末頃に終わること、9トピックを均等にわけることが可能であることを考慮にいれ、週に1回2時間、10週間の3ターム制(9～12月、1～3月、4～6月)で設定した。

【表3：パイロットコース コース設定】

ターム	コース時間数	トピック	内容	内訳
1	20時間 (週1コマ2時間x10週)	1～3	かつどう	12時間
			りかい	6時間
			発表	2時間
2	20時間 (週1コマ2時間x10週)	4～6	かつどう	12時間
			りかい	6時間
			復習	2時間
3	20時間 (週1コマ2時間x10週)	7～9	かつどう	12時間
			りかい	6時間
			復習	2時間
			(テスト)	
			合計	60時間

トロントセンターで初めて実施する日本語総合講座であったことから、パイロットコースとして当センターの展覧会やイベントでゲスト対応をお願いしている成人ボランティアに協力を呼びかけて受講者を募ったところ、20代～50代の5名が集まった。学習者の受講目的は、日本への旅行、日本文化への興味、継承語としての日本語学習等であり、過去に大学で日本語学習歴(1年)がある者1名以外はみなゼロ初級であった。

パイロットコースでは、コミュニケーション言語活動に比重を置き、【表4】に示したように、「かつどう」編2時間と「りかい」編1時間で一課を終えるように授業を考えた。「かつどう」編を使用した授業では、教科書にある口頭練習やタスクを順番に時間をかけて行った。

【表4：一課の流れ】

Week 1	かつどう(L3) 2時間	1 ト ピ ック
Week 2	りかい (L3) 1時間 かつどう(L4) 1時間	
Week 3	かつどう(L4) 1時間 りかい (L4) 1時間	

「りかい」編では、「かつどう」編の口頭練習の中で学習者に注目・意識してほしい言語形式（表現と文法）を確認することに力を入れ、文字練習や読みの練習は、後述（2.1.2節）するように、教科書にある練習問題を一部宿題とし、受講生が自分のペースで学習が進められるようにした。

コースは「人々の相互理解につながる」（『まるごと』『はじめに』）ことを大きな目標に、「Can-do チェックを通して日本語のスキルを磨くこと、及び文化的側面から日本の人々や社会を学習すること」<sup>(2)</sup>、楽しく日本語を勉強することを念頭に授業に臨んだ。

### 2.1.2 文字指導

『まるごと』では、入門（A1）終了時におけるひらがなとカタカナの文字習得の目標を、読み80%、書き60%としているが、次のレベルへの学習継続を考慮にいれ、トロントセンターでは、Term 1でひらがな、カタカナ全ての文字を導入、3タームを通して読み書きの練習をしていくこととした。Term 1で、「かつどう」編、「りかい」編問わずに授業時間15分程度を使い毎週10～15文字ずつ導入し、宿題に練習シート（資料2）を配布した。漢字は「りかい」編にそって導入した。該当課で漢字練習シート（資料3）を配布、読み方を確認後、画数が多い漢字や書き方が難しそうなもののみ書き順を確認したが、それ以外は「まるごとプラス」のサイトで受講者が各自確認し、書く練習をするように指示した。

### 2.1.3 補助教材：語彙リスト、宿題、漢字シート、まるごとプラス、まとめのE-mail

各課には語彙リスト（資料4）を用意し、新しい課が始まる際に配布した。宿題（資料5）は、授業毎に用意した。受講生の様子を観察していて、1週間に一回会うだけでは定着が悪く忘れてしまうのではないかという懸念から、宿題を用意した。毎回2～4ページで、内容は、必ずもう一度聞いてもらいたい練習（音声教材）の提示、「りかい」編の「もじとことば」の一部や作文、「まるごとプラス」を使用しての練習、新しい表現を使っの日本語訳、簡単な日記を書くこと等をまとめて渡し、翌週に提出してもらった。提出された宿題は担当講師がチェック、必要であればコメントを付け、翌週返却した。また毎授業後、学習事項のまとめと、宿題の一部に載せた「まるごとプラス」などのウェブサイト link にすぐにアクセスできるように link を載せた「まとめのE-mail」を送った（資料6）。クラスで話題になったトピックを扱ったウェブサイトの link 等も一緒に送り、文化体験の一部にしよう心かけた。

#### 2.1.4 評価方法

パイロットコースにおける評価は、質的側面の評価は行わなかったものの、「Can-do チェック」と「にほんごチェック」による自己評価を含むポートフォリオを作成したかどうかを評価に含めた。ポートフォリオには、自己評価表、宿題や作文などの成果物、文化体験シート等を入れるように各 Term の最初に指示した。自己評価表は各課の扉のページ（例 『まるごと』「かつどう」編 21 ページ）にある Can-do チェックをクラスで確認後、☆を塗る作業は学習者各自が宿題の一部として行い、課が終わった後の週に提出してもらった。文化体験は Term 中に数回、受講者それぞれが体験した日本文化（例：レストランでの食事、日本映画鑑賞等）をクラスで共有してもらった。

筆記試験と口頭試験は、入門(A1) レベル本冊が全て終わる Term 3 終了時まで実施しなかった。3 Term かけてひらがなとカタカナに慣れることを目標としたため、読み書きが評価対象になる試験はせず、その代わりに、Term 1 では、第 1～6 課で学習した表現を実際に使用する機会を設け、Show & Tell 形式で自己紹介を行った。宿題の一部として 2、3 週間程かけて用意したスクリプトを見ながら、クラスメートとトロントセンター職員の前で発表を行った。Term 2 では、グループで簡単なスキットをしてもらうことを考えたが、準備する時間が足りず、最終的には学習項目を復習するにとどまった。

Term 3 では、上述した通り、初めて教師による評価、Nihongo Challenge（筆記試験、及び口頭試験）を実施した。『まるごと』入門 (A1)コースの学習を終えた学習者の日本語能力を客観的に測ること、そして同年 9 月より開講を予定していた『まるごと』初級 1(A2-1) のコースのプレースメントテスト実施のために、入門(A1)レベルのコース修了者の日本語のレベルを見ることが、担当講師にとって必要であったためである。

筆記試験、口頭試験の作成は、『まるごと』本冊にある「テストと振り返りのページ」、他拠点で作成された試験、「JFS/CEFR に基づく JFS 日本語講座レベル認定試験 (A1)」(熊野他 2013)を参考に作成した。口頭試験は、「交流会話<sup>(3)</sup>」、「場面会話<sup>(4)</sup>」(来嶋 2015)の両方を含めて行った。

本試験はオープンブックで行った。本を見ながら練習を続けてきた学習者の心理的不安を取り除くためであったが、実際に本を見ながら試験を受けている受講者はいなかった。

#### 2.1.5 パイロットコース入門(A1)の反省点と今後の課題

以上の実践に対して、コース終了時アンケートの回答結果【表 5】と担当講師の振り返りをもとに、以下のような反省点と今後の課題が考えられた。

1) カリキュラムについて

コース終了時アンケートの回答には、授業進度は「適当」との回答が全員から得られたが、「クラスがもう少し長かったらいい(Term 2)」、「週に2回だっ

コースへの満足度

Excellent	9
Good	2
Average	0
Below Average	0

クラスの進度

Too slow	0
Slow	0
Appropriate	11
Fast	0
Too fast	0

宿題の量

Too little	0
Appropriate	11
Too much	0

	どのスキルが一番 comfortable ですか	授業中にもっと時間を費やしてほしいスキル
Reading	4	1
Writing	5	0
Listening	3	3
Speaking	0.5	6

たらいい(Term 3)」というコメントも見られた。しかし、忙

【表5：パイロットコース入門(A1) コース終了時アンケート結果 (回収数 11)】

しい成人学習者にとって週1回のスケジュールでも来られず辞めていった学習者もあり、同年9月からの本コースは同様に実施することとした。

しかし、次のレベルであるパイロットコース初級1 (A2-1)は、入門(A1)に比べると、文の長さや文型の複雑さのレベルがあがり、練習にも時間がかかると思われたことから授業時間を増やす必要があると考え、「かつどう」編、「りかい」編それぞれに1コマ (120分) ずつ設け、各ターム合計24時間に設定した。

2) 口頭能力の練習

『まるごと』には、モデル会話をもとに自分たちで会話を作ったり、自分のことについて話したりする練習があるが、授業の時間を口頭能力の練習にもっと費やしてほしいとするアンケートの回答がどのTermでも多かった。この回答からは、受講者が思い描く

「Speaking」の練習のイメージは分らなかったが、「クラスであつたらいいと思うことがありますか」という質問に対し、Term1の時点から「個人的に、もっとその場でぱっと日本語で答えさせられるべきだと思う」という回答があった。このような回答を参考に、教科書を元にどのような練習が可能かを考えていく必要がある。

3) 文字の導入時期

パイロットコースでは、Term1でひらがな、カタカナを全て導入したが、学習者からひらがなとカタカナを間違えてしまうというコメントが授業中にあり、日本語自体に慣れていない学習者には学習項目の量が多すぎた可能性がある。本コースでは、Term1でひらがなを、Term2でカタカナを導入することとした。

#### 4) 教師による評価の実施

本コース入門(A1)では、教師による評価を Term 1 から毎 Term 実施する。試験実施により客観的に学習者の日本語能力を測り、学習者にとっても自己評価だけでなく自身の能力を試すことができる機会を作ることを目的とする。

## 2.2. 本コース 入門(A1)

### 2.2.1 本コース入門(A1)レベル実践

以上の反省点・課題をふまえて、2014-15年度秋には、上記の講座の本コースを実施した。大きな変更点のひとつである教師による評価（資料7）の実施は、ターム最終日に行った。筆記試験作成はパイロットコースと同様にした。口頭試験は、『まるごと』の教科書にあるように、Can-do 達成を3段階評価で行った。最終成績は、出欠席 60%、ポートフォリオ作成（自己評価表、文化体験シート、宿題）30%、Nihongo Challenge（筆記試験・口頭試験）10%を全体の割合とし、70%以上の成績を修めた受講生に対して修了証を渡した。

本コース入門(A1)の受講者は、一般対象に広報を行い、受講者を募った。集まった学習者の受講目的は、パイロットコース入門(A1)と同様、日本への旅行、日本文化への興味、継承語としての日本語学習等であったが、日系企業でインターンシップの経験がある大学生や、日本に家族が在住している学習者も数名見られた。大学時代に日本語を勉強したことがあるという50代の受講生と、大学の生涯教育コースで10週間勉強したことがある受講生以外は、全員ゼロ初級だった。年齢は20代~60代だった。

クラスの流れは、前年度からの変更はなかったが、クラス内の指導として「かつどう」編では聞いたことをシャドーイングするように繰り返すよう促し、「りかい」編では「会話と文法」の内容質問を日本語で行ったり、問題の答え合わせをできるだけ日本語によるやりとりの中で確認するよう試みた。宿題、漢字シートはパイロットコース入門(A1)と同様にした。

また、講座開設2年目の1年を通して、学習者の様子をもとに以下のようなことを教案に含めるようにした。

- 1) 「扉のページ」で、Can-do チェックから学習項目をできるだけ具体的にイメージさせたり、同様の場面でどんな表現や語彙が役に立つかを考えたりして、クラスメートと共有する
- 2) 「ペアで話しましょう」（例：入門(A1)「かつどう」編 109 ページ）の練習では、いつまでも教科書に頼らず、数回練習した後は、教科書を見ずに練習してもらうように指示を出す
- 3) 教科書にある場面に似た場面でのロールプレイを用意し、練習を行う
- 4) クラスの最初には、必ずその前の週の語彙や表現を復習する

## 2.2.2 本コース入門(A1)レベル実践への振り返り

アンケートの回答結果によると、コース全体に対する満足度は高く、クラスの進度は概ね「適切」とあった。大きな変更点であったひらがな、カタカナの導入時期についても、Term 1と2で分けたことで、クラスでしっかり練習することができ、口頭試験での文字テスト（例：「かつどう」入門(A1)71ページ）も非常によくできていた。

コースへの満足度		クラスの進度		宿題の量	
Excellent	10	Too slow	0	Too little	3
Good	4	Slow	0	Appropriate	11
Average	0	Appropriate	12	Too much	0
Below Average	0	Fast	3		
		Too fast	0		

	どのスキルが一番 comfortable ですか	授業中にもっと時間を費やしてほしいスキル
Reading	11	2
Writing	11	2
Listening	11	4
Speaking	2	13

【表6：本コース入門(A1) コース終了時アンケート結果  
(回収数14)】

筆記試験、口頭試験の実施についても肯定的なコメントがあり、「自分が何ができて、何がよくできないのかがわかった」と学習者に自分を振り返る機会と捉えてもらうことができた。内容も「4つのスキルが混ざっていてよかった」「フェアだった」といいコメントを得た。しかしポートフォリオは、これは個人的なものであり、「自己評価は学習の目的を理解し、自分で何が出来ているかいないかが分かっているのので、最後に☆を塗る作業は必要ない」というコメントや、自分が自分を評価することができないとするコメントもあった。また文化についてもっと学びたいという要望も見られた。

『まるごと』の教科書については、特にトピックで構成されていることに肯定的な回答が多く聞かれ、「コミュニケーションに重きをおいているのがいい」という回答もあった。その一方で、「文型を見始めると、動詞がどこにあるか等話し始めるので、それであれば、最初から文法説明があった方がいいのではないか。参考情報としても使えるのではないか」という声もあった。ここで聞かれた「参考情報」には文法説明や語彙リスト等も含まれ、授業外で勉強する際に参考にできるものがほしいということだった。

また、このクラスには日本語学習歴のある学習者とゼロ初級者が混在し、学習歴のあるものには授業の内容が簡単すぎるのではないかという懸念もあったが、既習項目でも「課題達成」のための練習という位置づけになったことで学習者にとっていい復習になっていたのではないかと考える。

宿題は「楽しかった。自分のことが話せるから。自分と関係づけられるのがよかった。努力が必要だけれど。」「Fair だったと思う。宿題は最初からやらなくてはいけないことだと指示があったのはよかった。やってよかった。」という肯定的なコメントが聞かれた。量も「適当」という回答がほとんどであった。

2.2節で述べた教案作りを意識するようになってから、成果が出ているかどうかは現時点ではわからないが、「教科書を見ないでコミュニケーションをすることで、自分で文を作る力を試したり、既習項目を思い出したりする作業が自分の力になり、自信につながる」という声が聞かれた。

## 2.3. パイロットコース 初級1 (A2-1)

### 2.3.1 パイロットコース 初級1 (A2-1) 実践

上述した本コースと並行して、2014-15年度秋には、『まるごと』初級1 (A2-1)を使用したパイロットコース Japanese Together 2を実施した。概要は【表7】の通りである。

【表7：初級1 (A2-1) 講座概要】

コース名	Japanese Together Level 2
実施日時・期間	2014年9月～2015年6月
授業時間	120分@1コマ、1回 x12週=12回
授業担当講師	報告者
1クラスの学習者数	7名@Term 1*、6名@Term 2、5名@Term 3
学習者の属性	男性1名、女性4名@Term 3 20代3名、40代1名、50代1名
使用教材	『まるごと』初級1 (A2-1) かつどう、りかい

\*パイロットコース (入門) A1からの学習継続者3名を含む

ターム	学習者数	コース時間数	トピック	内容	内訳
1	7	24時間 (週1コマ2時間 x 12週)	1～3	かつどう	12時間
				りかい	12時間
				(テスト&ふり返り)	
2	6	24時間 (週1コマ2時間 x 12週)	4～6	かつどう	12時間
				りかい	12時間
				(テスト&ふり返り)	
3	5	24時間 (週1コマ2時間 x 12週)	7～9	かつどう	12時間
				りかい	12時間
				(テスト&ふり返り)	
				合計	72時間

このコースには、前年度のパイロットコース入門(A1)の受講者3名に加え、さらに新しい参加者を前年度同様当センターのボランティア対象に募った結果、日本語を大学の生涯教育で2年間学習した者、当地の高校で勉強した経験のある者、出身国で2年間勉強した経験のある者、独学で日本語を学習してきた者の4名の応募があった。受講者募集の際には、受講希望者に入門(A1)と初級1 (A2-1)の Can-do チェック含んだセルフチェックシートの記入をお願いした。プレースメントテストの筆記試験は、前年度パイロットコース入門(A1)の最終 Term の試験を元に作成し、文法を中心にした問題、漢字の読み方、短い作文を課した。口頭試験には入門(A1)レベル、初級1 (A2-1)レベルの Can-do チェックのロールカード (例：初級1 (A2-1) 「かつどう」

編 Can-do 10、15、47<sup>(6)</sup>) を用意した。レベル判定には、入門(A1)、および 初級 1 (A2-1)で勉強する表現や文法を知っているかどうかだけでなく、やりとりにおける産出が単語レベルか文レベルか、文法の運用能力等、課題達成の質のレベルをみるようにした。入門(A1)でテストの60%以上の成績をコース修了基準としていたため、プレースメントテストにも同基準を用いた。

プレースメントテストを受けて入ってきた新しい4名と、入門(A1)を修了して入ってきた学習者を授業で比較してみると、『まるごと』で勉強してきた受講生は、音声優先インプットによる帰納的アプローチに慣れているからか、分からないことがあってもあせらず、コンテクストから理解しようとする姿勢が見られた。

パイロットコース初級 1 (A2-1)は、2.1.5 節で述べたように、コース合計時間を増やしたことから余裕が生まれ、「かつどう」編各課の「聞く・気づく」の聴解問題から「ルールを発見する」に少し時間をかけ、本コース入門 (A1) と同様、ただ聞くのではなく、新しい言葉や表現がないか意識して聞き、「発見」を促すように指導した。「りかい」編も、本コース入門 (A1)と同様、「会話と文法」の内容理解や問題の答え合わせを、日本語でのやり取りの中でできるように試みた。漢字シートは練習シートを配布、さらに復習をフラッシュカードでしたり、新出漢字を使ってお話を作ってもらう等のオプションの練習も用意した。宿題もパイロットコース入門(A1)と同様に行った。2.2 節で述べた教案作成の際の注意をこのコースでも含めるようにした。

### 2.3.2 パイロットコース初級 1 (A2-1)実践の振り返り

パイロットコース初級 1 (A2-1) も、コース全体に対して受講者から高い満足度を示す回答が得られた。教科書に対しても肯定的で、トピックや場面からのアプローチ、話し言葉、コミュニケーション能力の上達、文化等のキーワードから、トピックを通して学習者が自身の日本語能力が上達していると感じていると思わせる。

コースへの満足度		クラスの進度		宿題の量	
Excellent	13	Too slow	0	Too little	1
Good	1	Slow	0	Appropriate	12
Average	0	Appropriate	12	Too much	1
Below Average	0	Fast	2		
		Too fast	0		

	どのスキルが一番 comfortable ですか	授業中にもっと時間を費やしてほしいスキル
Reading	12	4
Writing	8	6
Listening	9	8
Speaking	3	12

【表 8：パイロットコース初級 1 (A2-1) コース終了時アンケート結果 (回収数 14)】

評価も、入門(A1) レベルと同様、試験実施自体がよかったとするだけでなく、試験勉強はこれまでの学習を思い出すいい機会であり、小テストの実施を求む声すら聞かれた。自己評価

は、どのタイミングで使うのがいいかは学習者によって違うようだが、学習を振り返ることに役立ったということだった。

「かつどう」編、「りかい」編に1コマずつかける設定も、コミュニケーション言語活動、もしくはコミュニケーション言語能力に焦点が絞られたことで流れがわかりやすくなった。また、「かつどう」編では聴解問題と「発見」に時間をかけることができたためか、学習者の未習文型に触れた時の反応が早くなっている印象を受けた。実際に、講座時間数については、パイロットコース入門(A1)から継続して初級(A2-1)に進んだ3名の学習者のうち、2年間を終えたある1名から、初級1(A2-1)では入門(A1)と比べてもっと学習項目が多く、1Termにかける時間が増え、「かつどう」編、「りかい」編それぞれにクラスを設けたことはよかったと回答があった。入門(A1)の時間設定では、「できないわけではないけれど、新しい言葉を習い始めて、それと同時にそれ(学習内容)を把握しようとするのは、1週間、間があくこともあるし、時々いっぱいになってしまう」とのことだった。

また、同じ受講者から、評価実施は試験が4つのすべての技能を使うテストであったこと、そして試験が自分をプッシュすることでもっと学習内容を吸収できて非常に役に立ったこと、そして、「かつどう」編を使って帰納的にアプローチした後で、「りかい」編から演繹的にまとめる『まるごと』の学習法は、学習者自身が分からない日本語を前にしても、それを一生懸命理解しようとする姿勢を身に付けさせたとコメントがあった。

#### 2.4 評価 - 口頭能力の評価について

先述の通り、開講2年目には初級1(A2-1)と入門(A1)の両レベルで教師による評価を始めたが、評価を実施するにあたって担当講師が難しいと感じた点は、Can-doで示された言語活動がどのぐらい達成できたかを測る口頭試験において、学習した文法項目の不使用や不正確さをどう評価するかという点である。文法シラバスで経験を積んできた担当講師は、「課題達成」は学習した文法がどのぐらい正確に運用されたかを見ることも含まれると考え、質的評価に重きをおいていた。しかし、Can-doを「達成できたか、できなかったか、あるいはどれぐらい達成できたのか」を見るならば、学習文法の間違いや不使用については、以下の例1～3に見られるように、やりとりの中で学習者自身が間違いに気がついて訂正したり訂正されたり、正確さに欠けていてもコンテキストから何を言わんとしているかが分かれば課題達成とした。

**例1** 初級1(A2-1) Can-do 48 自分の持ち物について、誰にもらったかなどを簡単に話します。

T1: Aさん、この時計、かつこいいですね。

S1: ありがとうございます。私は買ったんです。

T2: いつ買ったんですか。  
S2: 卒業の時、買ったんです。

→ 上掲の例では、T2 の発話を聞いて、S2 は自身の間違いに気が付き修正できており、このようなケースは「課題達成」と判定した。

**例 2** 初級 1 (A2-1) Can-do 23 外国語や外国文化について困った時、誰かに頼みます/頼まれて答えます。

T1: B さん、どうしました。  
S1: あ、すみません、この漢字は、なんですか。読みのが、わかりません。  
教えてくださいませんか。  
T2: 「しごと」ですよ。  
S2: はい、わかりました。どうもありがとうございました。

→ S1 では、T1 の質問に対して、「～方」という学習した文型が使われていないが、「この漢字は、なんですか。」「教えてくださいませんか」で意思疎通ができているため、「課題達成」と判定した。

**例 3** 初級 1 (A2-1) Can-do 43 身体にいいことをすすめます。

T1: 私は、さいきん、あまりちょっと寝られないんです。  
S1: 寝る前に、音楽をきいて、ききます。  
T2: 音楽を...  
S2: 音楽を聞いています。  
T3: 聞いています？ そうですか。  
S3: 牛乳を飲みます。  
T4: そうですか。牛乳を飲むといいですか。

→ この例では、「～たほうがいいです」という文型でのアドバイスが求められていたが、S1、S2、S3 には求められている言語行動が出せておらず、「課題が達成されていない」と判定した。

また JF スタンドでは、A1 レベルの Can-do 達成について「もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやりとりができる」と書かれているが、実

際に「助け舟」とはどの程度の行為になるのかという点も確認の必要があることがわかった。

(例4)

**例4** 入門 (A1) Can-do 28 趣味について話します。

T1: Aさんの趣味はなんですか。

S1: しゅみ？わかりません。

T2: わかりません。

S2: しゅみ、わかりません。

T3: 趣味は、スポーツですか。趣味は音楽ですか。それとも、趣味は映画ですか。

S3: 音楽。

T4: 音楽、そうですか。どんな音楽が好きですか。

S4: はい、好きです。

T5: どんな音楽ですか。クラシックですか。ロックですか。

S5: クラシック、です。

→ 上の例4では、T1の質問に対して、S1、S2では「わかりません」と答えているが、T3で教師が具体的な例を示しながら質問をすると、S4で提示された例から「趣味」の意味を理解し、その後の質問に対しては適切な答えが述べられ、やりとりが完成できている。このようなケースを見ると、教師がどのような「助け舟」を出すかによって、学習者が課題を達成できる可能性があることが確認された。

以上のような評価実施から、文法にとらわれず、課題達成を目標にしていることを念頭に置いた授業をしていかななくてはならないことを改めて認識するに至った。

### 3. 今後の課題

以上、トロントセンターでの2年間の取り組みとその振り返りを述べた。以下各コースの今後の課題を述べる。

#### 3.1 入門 (A1) レベル

文法を習って理論的に言語を習得していこうとする成人学習者は多いと思うが、トロントセンターの受講生も例外ではなく、アンケートやインタビューの回答にもあったように、なにもかもが新しい入門レベルの学習者には、文法説明書や語彙リスト等が参考情報として必要とされているとわかった。しかし、受講生がそれらに頼りすぎてしまわないように注意し、『まる

ごと』のアプローチや利点をうまく伝えていかななくてはならない。上述（2.3.2節）したように、継続学習者からのコメントをもとに、入門(A1)レベルにかける時間数を増やし、もっと練習ができれば、コースの中で受講者の不安も解消できるかもしれない。今後の検証が必要である。また、ポートフォリオの作成において自己評価ができない、意義が見いだせないとする声があったが、この点に関しても、どのように指導したらいいか考えていく必要がある。

### 3.2 初級1 (A2-1) レベル

このレベルの受講者は、だんだん日本語に慣れてきており、簡単なフレーズであればすぐに聞き取って繰り返すことができるレベルである。授業でモデル会話を楽しそうに練習をしている様子を見ると担当講師としても非常にうれしく思う。しかしその反面、その中に出てくる表現には「て形」や「辞書形」等、今後の学習の大事な基礎となるものが多くあり、トピックや場面を中心に展開しているコースで課題達成を目標としながらも、どのように指導すれば、学習者の体系的な文法理解をさらに促せるのかを考えていく必要性を感じている。ポートフォリオについても、入門(A1)と同様、どのように意味のあるものにできるか思案が必要である。

## 4. まとめ

カリキュラムの設定から、講座広報、受講者募集、講座受講にあたっての規約作りに至るまでのプログラム全体の立ち上げと同時に、『まるごと』的なアプローチを学習しながらの講座の実施は、試行錯誤の連続だったが、ここまでくることができたのは、何よりも受講者のおかげだと思っている。上記以外にも課題山積しているが、受講生からの貴重なフィードバックをもとに、反省は成長へとつなげたい。

今回実施した3コースのアンケートの回答、及びインタビューから一番伝わってきたのは、受講者の日本語学習に対する熱心さである。成人学習者は非常に忙しく、また授業時間内でできることも限られているが、授業を、勉強する場所としてだけでなく、学習者自身が既に持っているリソースに気付き、それを他の学習者と共有する場所、一緒にさまざまな可能性を見出す場所として活用してもらえたらと思っている。

最後に、トロントセンターの『まるごと』講座の名前は、ある別の仮称で始まったが、入門(A1)のパイロットコース終了時に、ある受講生がみんなと一緒に勉強することが楽しかったと「Japanese Together」はどうかと提案してくれたものである。日本語の学習目的・理由はみなそれぞれだが、日本語・日本文化を通して、人、そして世界とつながることで、受講者の人生が豊かになっていくことを望むばかりである。

## [注]

- (1) トロントセンターで実施した単発講座については、次のウェブサイトに履歴。 <http://jftor.org/archive/>
- (2) “The aim of this course is to develop the learner’s language skills through the focus on learning by using “Can-do statements”, and to learn cultural aspects to get to know people and society.”
- (3) 場面会話 例) ハンバーガーショップでの注文、タクシー、買い物など
- (4) 交流会話 例) 好きなもの、趣味、休日の過ごし方など
- (6) Can-do 10: 地図を見ながら、自分の町のおすすめの場所／地域について友だちに言います。  
Can-do 15: 友だちと待ち合わせの時間と場所を話します  
Can-do 47: ともだちのお祝いについて何にするか話します

## [参考文献]

- 熊野七絵・伊藤秀明・蜂須賀真希子 (2013) 「JFS/CEFR に基づく JFS 日本語講座レベル 認定試験 (A1) の開発」『国際交流基金 日本語教育紀要 第9号』73-88 独立行政法人国際交流基金 <<http://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/research/report/09/pdf/05.pdf>>
- 来嶋洋美 (2015) 「入門・初級教材における相互理解のための課題遂行」『国際交流基金日本語国際センター25周年記念シンポジウム 課題遂行を出発点とした言語学習デザイナー 『まるごと 日本のことばと文化』の挑戦ー』2-3 独立行政法人国際交流基金 日本語国際センター <[https://www.jpf.go.jp/j/urawa/about/25th/dl/repo150201\\_01.pdf](https://www.jpf.go.jp/j/urawa/about/25th/dl/repo150201_01.pdf)>
- 国際交流基金 (2014) 「JF 日本語教育スタンダード」準拠コース事例集 ーJF 講座における実践ー』 <<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/education/jf/case/2014/>>
- 国際交流基金(2013) 『まるごと 日本のことばと文化』 「はじめに」 <[http://jfstandard.jp/pdf/KatsudoA2-2\\_hajimeni.pdf](http://jfstandard.jp/pdf/KatsudoA2-2_hajimeni.pdf)>



資料2：ひらがな練習シート

Japanese Together! (A1)  
Fall, 2014

a	あ	あ	あ	あ					
い	い	い	い	い					
う	う	う	う	う					
e	え	え	え	え					
o	お	お	お	お					

ka	か	か	か	か					
ki	き	き	き	き					
ku	く	く	く	く					
ke	け	け	け	け					
ko	こ	こ	こ	こ					

I. Write the words below in Hiragana.

a) AI (Love) \_\_\_\_\_

b) AU (to meet) \_\_\_\_\_

c) IE (House; No) \_\_\_\_\_

d) UE (Up; on) \_\_\_\_\_

II. Write the words below in Hiragana.

e) KA O (Face) \_\_\_\_\_

f) KO E (Voice) \_\_\_\_\_

g) I KE (Pond) \_\_\_\_\_

h) A KI (Autumn) \_\_\_\_\_

資料3：漢字シート

Japanese Together! Level 2  
Topic 2 - L3 Kanji

Let's try writing Kanji!

春 (spring) 夏 (summer) 秋 (fall) 冬 (winter) 今 (now)

花 (flower) 海 (sea) 山 (mountain) 川 (river)

春	春	春	春			花	花	花	花		
夏	夏	夏	夏			海	海	海	海		
秋	秋	秋	秋			山	山	山	山		
冬	冬	冬	冬			川	川	川	川		
今	今	今	今			☺					

\*Please check the stroke order on Marugoto Plus (A2)

Practice: かんじを 読みましょう!

1) 全、日本は春です。花がきれいです。

2) 夏な季節は 秋と冬です。

3) この夏は 山と 海で あそびます。

4) 川で 魚をとります。

資料4 : 語彙リスト

まるごと A1 - Term 2  
Topic 4 Lesson 8

Noun	
Words	English
あさ	morning
いちにち	a day
いつ	when
いま	now
うち	home
うんどう	physical exercise
おんがく	music
かいしゃ	compnay
かじ	house chores
がっこう	school
ごご	pm
ごぜん	am
しごと	work
シャワー	shower
しんぶん	newspaper
せいかつ	daily life
なんじ	what time
にっき	diary
ニュージーランド	New Zealand
ばんごはん	dinner
ひる	daytime
ひるごはん	lunch
ブログ	blog
まいにち	everyday
よる	night

I Group / U-Verb			
Words	Romanization	Dicationary Form	English
かきます	kakimasu	kaku	to write
よみます	yomimasu	yomu	to read
ききます	kikimasu	kiku	to listen
いきます	ikimasu	iku	to go
かえります	kaerimasu	kaeru	to go home
シャワーをあびます	shawaa wo abimasu	shawa-wo abiru	to take a shower
2 Group / Ru-Verb			
おきます	okimasu	okiru	to wake up
ねます	nemasu	neru	to sleep
みます	mimasu	miru	to see; to look at; to watch
はいります	hairimasu	hairu	to enter
3 Group / Irregular-Verb			
します	shimasu	suru	to do
べんきょします	benkyou-shimasu	benkyou-suru	to do
さんぽします	sanpo-shimasu	sanpo-suru	to take a walk



Adjectives		
Words	English	
いそがしい	isogashii	busy
おそい	osoi	late, slow

Expressions		
Words	English	
〜ごろ	~goro	around
〜じ	~ji	o'clock (ex: いちじ - 1 o'clock)
〜はん	~han	half (ex: いじはん - half past two)
〜ふん / ぶん	~fun/pun	minutes
ええ	ee	yes

資料5 : 宿題シート

まるごと A2-1 Term 3  
HW – Week 6

Wednesday

1. Rikai: Review Listening (pg146 – Track 254)
2. Rikai: Review Listening (pg146 – Track 255-258)
3. Rikai: Review Listening (pg 148 – Track 261)

→ Let's try shadowing these! ☺

Thursday

1. Please do the kanji sheet! ☺  
\*When you practice, please check the stroke order for new kanji on the following website.  
<http://a2.marugotoweb.jp/en/kanji/list/?topic=8&lesson=16>
2. Please check the Marugoto Plus Kanji Drills!  
You can find it on the same page from the same website above. (Please click “かんじドリル” above the kanji chart)

Friday

1. Please complete the writing practice attached.

Weekend

Have a great weekend! ☺ Please tell us about your weekend!!

月 日 ( )

月 日 ( )

Monday

2. Please go to the link below and do the grammar practices online!  
<http://a2.marugotoweb.jp/en/grammar/lesson16/practice0.html>  
➤ Check with Video  
➤ Q1, Q2 & Q3

3. れんしゅう(practice) は、どうでしたか。 \_\_\_\_\_

4. 何%ぐらいいきましたか。 \_\_\_\_\_

## 資料6：まとめのE-mail（文面例）

Japanese Together! (A1)のみなさん

こんにちは！

きょうも、おげんきですか？

Thank you for your great work yesterday again! I see your speed in Japanese is getting faster! すごいです！^^

As always, below is a recap from yesterday as well as some links.

### I. Recap from yesterday

#### 1) カタカナ Review

#### 2) りかい (L11)

##### a) Phrases

•A: しゅみは なんですか。 B: スポーツです。

•テニスが すきです。

•テニスが できます。

•Frequency words

Often: よく ほんを よみます。

Sometimes: ときどき ほんを よみます。

Not very much: あまり ほんを よみません。

Not at all: ぜんぜん ほんを よみません。

•place で、verb

うちで ほんを よみます。

JFTで にほんごを はなします。

##### b) かんじ

言います、話します、読みます、見ます、聞きます、書きます

[http://a1.marugotoweb.jp/basic\\_training.php?p=kn](http://a1.marugotoweb.jp/basic_training.php?p=kn)

#### 3) かつどう (L12)

##### a) ポスター

##### b) いっしょに いきませんか why don't we go together?

### II. Link to HW

Below is the links for the audio materials for HW.

りかい Lesson 11

[https://www.dropbox.com/sh/e9or71bawow77n8/AACXRHDieO\\_g-hoiQhi-WRpXa?dl=0](https://www.dropbox.com/sh/e9or71bawow77n8/AACXRHDieO_g-hoiQhi-WRpXa?dl=0)

### III. Coming up Japan related events in Toronto

There are a lot of events coming up related to Japan in Toronto!

#### 1) ひなまつり@ JFT Library

<http://jftor.org/event/hina-matsuri/>

3月7日(土) ごご 12時～5時

(後略)

Japanese Together! (A1)  
Winter 2015

< Nihongo Challenge! >

On our last day of this term (March 18), let's do "Nihongo Challenge!" to measure our language skills!

Katsudou - Short Interview	Rikai - Reading & Grammar
<p><b>Part 1 : Japanese words</b> We will read five words like the following. If you can read three out of five, you will pass! Ex) わたし、すいようび、しゅみ、スポーツ...</p> <p><b>Part 2: Question &amp; Answer</b> There will be three questions for you to answer.</p> <p><b>Part 3: Task performance</b> You will be given one task card. Let's do a role play! (It will be one of the Can-do Checks from Lesson 7-12 in Katsudou textbook.)</p>	<p><b>Part 1: Listening Comprehension</b> You will hear very short conversations and answer the questions.</p> <p><b>Part 2: Kanji Reading</b> Ex) 大きい → おおきい / 新しい → あたらしい</p> <p><b>Part 3: Grammar (Multiple choice)</b> Ex) のださん(aは bを cと)おんがく(aに bと cが) すきです。</p> <p><b>Part 4: Make correct sentences</b> Ex) にんきよう (a.たな b. うえ c.は d.の) です。</p> <p><b>Part 5: Reading comprehension</b> Ex) Rikai pg 98</p>

After "Nihongo Challenge!" we will reflect on our term with your portfolio. Please bring it to class and please share your learning with your classmates!

